

旭川市

# 井上靖記念館報

平成26年7月1日発行／第14号

協賛：井上靖記念文化財団 編集：井上靖記念館 発行：特定非営利活動法人旭川文学資料友の会



浦城 いくよ  
(井上靖記念館特別相談役・井上靖長女)

## ガンダーラの仏頭

いつの頃からか井上家の応接間には父の何度かのシルクロード旅行で手に入れた壺やお皿などの古美術品と並んでガンダーラの仏頭が飾られるようになっていた。彫りの深い、はつきりとした顔立ちの気品のある仏さまである。書斎や応接間の移築のときに旭川市井上靖記念館へ差し上げ、今では展示品となって多くの方々に見ていただいている。

ガンダーラはアフガニスタン東部からパキスタン北部にかけて存在した古代王国で、一五世紀に仏教が栄えて仏教美術品が盛んになり、特に二世紀のカニシカ王の時代が黄金期であった。その頃作られたものらしいこの仏頭は、財界人で父の友人である今里広記さんの形見として今里家から頂戴したものと聞いている。ガンダーラの仏頭を語る時、今里さんを抜きに語ることは出来ない。

父と今里さんがいつ、どこで初めてお会いしたのかはどうしても分からない。次女の今里康

子さんをお訪ねしている伺ったがはつきりしたことは分からない。とにかく父は今里さんとは同年の生まれでもあり、非常に気が合い、仲がよかった。事あるごとに「今里さん、今里さん」と言い、「今里さんはどう思うか聞いてみよう」などとよく言っていた。いつか康子さんにこのことをお話ししたら「こちらもそうでしたよ。井上さん、井上さんと言って、夜遅くなくてもお電話をしてさぞかしご迷惑なことでしたでしょう」と言われた。

今里さんには父母と一緒に私も天婦羅をご馳走になったことや、何の作品だったか父の原作の芝居を見に行った帰りには、何十人もの人々と中華料理をご馳走になったこともある。父の

今里さんには父母と一緒に私も天婦羅をご馳走になったことや、何の作品だったか父の原作の芝居を見に行った帰りには、何十人もの人々と中華料理をご馳走になったこともある。父の



ガンダーラの仏頭

郷里、伊豆湯ヶ島の家の移築の際も湯ヶ島まで来られた。二階の和室で父が「お忙しいのに遠くまでわざわざ来ていただいた。」「いやいや、僕がいなくても会社はどうにでもなるのですよ」とニコニコしておられたのをよく憶えている。父に関する行事のときは必ず来て下さっていた。

今里さんと父は二度一緒に海外の旅に出掛けている。最初は昭和四十八年五月〜六月、考古学者の江上波夫氏、画家の平山郁夫氏らとの一ヶ月余りかけたアフガニスタン、イラン、イラク、トルコ旅行であったが、今里さんは当初は最初から参加の予定だったが、所用が出来てイランから変更され、さらに所用が出来て結局は最後のトルコだけ参加された。これをとても残念がられ、昭和五十二年三月〜四月に行なわれた旅行には、江上波夫氏、平山郁夫氏夫妻らに加え、小学館社長の相賀徹夫氏も参加され、父は母を同行し、今里さんも参加された。トルコのイスタンブールで開かれた「平山郁夫シルクロード展」を見た後、エジプト、イラク、イランへ旅行した。父は『遺跡の旅・シルクロード』の中で、「エジプト・イラク紀行」にこの旅行を書いている。バスに乗って遺跡を巡り、街から街へと沙漠の道を移動している。遺跡に着くと父はノートを手写真を撮ったり、平山さんは写生をしたり、今里さんはナイルの流れを見るためどこかへ行ってしまわれたり、それぞれが自由に行動をし、ホテルに着くとワインを飲みながらの談話に夜の更けるのを忘れるよう

な楽しい旅だったようである。

此の旅の途中のどこかの国で今里さんは「ガンダーラの仏頭」を買われている。江上先生はじめ皆に勧められて求められたのであろう。ガンダーラの仏頭がはるばる日本に到着すると平山さんと父は今里家に招かれ、仏頭を三人で囲んでいる写真が今里家に残っている。

この旅行から八年後の昭和六十年五月、今里さんは七十七歳で亡くなった。旅行から帰国して今里さんが「お悪い」と聞いた父はオロオロしてすぐにはお見舞いには行けなかった。育ちも、学校も、仕事も異なり、ただ年齢だけが同じで六十歳代で知り合い、互いに尊敬し合い、あれほど仲良くなれた友人はあまり多くはないでしょう。



仏頭を囲んで左から今里氏、井上靖、平山氏

## ヴェネチアン ガラスの人形

父は昭和三十五年七月、ローマオリンピック取材のため、毎日新聞社から特派員としてローマへ派遣された。そのあと十一月まで、当時毎日新聞社バリ支局長だった角田明・房子夫妻の運転する車でヨーロッパ各地を旅行している。父にとって初めてのヨーロッパだったこともあり、美術館を沢山まわり、多くのものを吸収しようだ。

後に書いた『化石』や、小説家の美術ノート『レンブラントの自画像』『ゴッホの星月夜』『カルロス四世の家族』などにこの旅が非常に役に立ったと思う。このときイタリアのヴェネチアのムラノ島で土産に求めたのがヴェネチアングラスの人形だ。

深い翠色をした二体の大ぶりのガラス人形で、背中には何か農作物らしきものを背負っている。イタリアの農家の若夫婦なのだろうか。

ガラス人形とはいえ豪華な、どっしりとした存在感溢れる人形である。旅先でこのような高価で大きなガラスの人形などをよく買ったものだと思うが、あれから五十年余り、応接間の飾り棚の上にでんと置かれ続けていた。最初に置いてから場所を移動したこともなく、永い歳月にわたって部屋にマッチしたよい雰囲気醸しだして、応接間にはなくてはならない飾りものとなっていた。



昭和六十二年、日本文学のフランス語訳の出版を祝う会がマロニエの花が満開のパリの日本大使館などで行なわれ、その後ヨーロッパを回った。私は父母の最後のヨーロッパ旅行に付きそって行き、ムラノ島へ行ったらとき、自宅用に白地に濃い水色の線で飾られた可愛いガラスの小鉢を迷った末に求めた。

父の買物は早かった。迷うことなど余りなく、欲しい物があると後先のことなど余り考えないでパッと買い、高価なものが好きだった。安いものはダメだと思込んでいたようだ。父からのお土産の品は確かに上等で、レースのシヨールやカメオのブローチや指輪など私は今でも大切に使っている。しかし父はブランド名などを全く知らなかった。ネクタイでもカバンでも自分の目で確かめてよいと思えばすぐに買っていた。そして気に入ると、それが使えなくなるまで使っていた。

## 赤い実のランプふあんクラブ 会報一〇〇号を記念して



赤い実のランプ  
ふあんクラブ会長  
中村 洋一

近くに「井上靖記念館」というとても貴重な施設がある。この恵まれた環境にある地域住民として大いにそこを利用させていただくと共に、その事が記念館を少しでも盛り上げる事になるかなと思いつつも足を運びました。そのうちに読書の好きな者同士が集まり本を楽しく読もうと言う事になり、五年前に会が発足しました。会の理念である「楽しい有意義な」何かを残さなければいけないと考え会報が生まれました。会のモットーは、①読書半分、トークングを半分の楽しい会に②月に三回程度の実施③時には靖さん以外の幅広い作品を読む④文学やゆかりの地を訪ねたり、会員相互の親睦を図る⑤記念館や靖通り清掃等のボランティア活動。「氷壁新聞」を作ったり、六花山荘での食事会、札幌、小樽、室蘭、函館などの文学館訪問など、楽しい会でこれまで誰一人やめた人はなく、会員手作りの会報もいつしか一〇〇号を迎えました。詳しくは「一〇〇号記念会報集7」に載っています。記念館との共催事業として館の職員の方も加わり、毎週土曜午前中「楽しい読書会」をしていますのでお気軽にお立ち寄りください。歓迎致します。

# 平成二十五年 事業報告

共催／井上靖記念文化財団

## 企画展

### 第一回企画展

井上靖と旭川展

四月二十七日(土)～七月二十八日(日)

#### ◆展示の主な内容

井上靖は明治四十年に旭川で誕生し、昭和二十五年に芥川賞受賞以降、生涯四回旭川を訪れています。井上靖記念館開館二十周年に当たり、最後の旭川訪問の折の姿と共に井上靖と旭川の関わりを示す展示をし、井上靖とその文学に親しむ手がかりとなりました。

#### ◆観覧者数

一 般 九〇二人／高校生 二人  
中学生以下 一四五人／免除九二二人  
合 計 一九七一人

井上靖記念館 旭川市  
〒990-0001 旭川市南一条二丁目1番1号  
TEL: 0142-22-1100 / FAX: 0142-22-1101  
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休 日 年中無休(祭日除く)

## 第二回企画展

井上靖 人と文学Ⅳ展―戦争体験―

八月三日(土)～十一月十七日(日)

#### ◆展示の主な内容

井上靖は昭和十二年九月、名古屋野砲兵第三聯隊補充隊に応召して大陸に渡り、北支各地を転戦しました。この間、毎日新聞社の社員手帳に克明に記録を取りました。井上修一氏に借用した手帳等を展示し、戦争体験を基に描いた小説、詩、エッセイを対比することで、作品の背景を明らかにし、戦争に対する靖の思いを探りました。

#### ◆観覧者数

一 般 一〇五一人／高校生 五人  
中学生以下 一七八人／免除 八三四人  
合 計 二〇六八人

井上靖記念館  
〒990-0001 旭川市南一条二丁目1番1号  
TEL: 0142-22-1100 / FAX: 0142-22-1101  
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休 日 年中無休(祭日除く)

## 第三回企画展

井上靖 現代文明批判展

十一月二十三日(土)～二月十六日(日)

#### ◆展示の主な内容

井上靖が昭和四十年代に発表した現代文明批判三作品、『夜の声』『樺の木』『四角な船』の内容を展示し、当時の社会現象であった、自然破壊やモラルの変化をどのように描き、どのように捉えていたか展示しました。写真や新聞記事を示し、井上靖がどのような思いを抱いていたかを探りました。

#### ◆観覧者数

一 般 一八一一人／高校生 一人  
中学生以下 一四人／免除 二四六人  
合 計 四四二人

井上靖記念館  
〒990-0001 旭川市南一条二丁目1番1号  
TEL: 0142-22-1100 / FAX: 0142-22-1101  
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休 日 年中無休(祭日除く)

## 第四回企画展

井上靖と天災地変展

二月二十二日(土)～四月二十日(日)

#### ◆展示の主な内容

今回が二回目となる全国文学館協議会が呼びかけた共同展示「3・11文学館からのメッセージ」に参加し、『作家のノート』『傾ける海』『小磐梯』の三作品に描かれた、伊豆半島に甚大な被害を出した狩野川台風、災害対策基本法を定めるきっかけとなった伊勢湾台風、明治の会津地方を襲った磐梯山噴火という天災を通し、井上靖が読者にどのようなメッセージを発信したのかを探りました。

#### ◆観覧者数

一 般 二九八人／高校生 五人  
中学生以下 六〇人／免除 一六二人  
合 計 五二五人

井上靖記念館  
〒990-0001 旭川市南一条二丁目1番1号  
TEL: 0142-22-1100 / FAX: 0142-22-1101  
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休 日 年中無休(祭日除く)

## 企画展関連事業

### 井上靖講座

開催中の企画展の見どころの紹介や解説を行いました。

- ① 井上靖と旭川 五月十八日(土)
- ② 井上靖 人と文学Ⅳ 八月二十四日(土)
- ③ 井上靖 現代文明批判 十二月七日(土)
- ④ 井上靖と天災地変 三月 八日(土)

## 普及事業

### 文学講演会

北海道ゆかりの作家・吉村昭の作品と、その人柄について講演を行いました。



文学講演会

代表作のひとつである『巖嵐』や明治時代に北海道の開拓に貢献させられる事になった囚人たちを描いた『赤い人』などの作品解説をはじめ、作家で吉村の妻である津村節子との生前の生活など、写真やエピソードを交えての貴重なお話をさせていただきました。

とき 六月十五日(土)  
講師 平原一良氏(北海道文学館理事)

### 井上靖 短編小説を読む(全四回)

井上靖の短編小説を取り上げ、朗読と解説を行いました。

- ① 『桃李記』 六月八日(土)
  - ② 『狼災記』 九月七日(土)
  - ③ 『天目山の雲』 十一月九日(土)
  - ④ 『比良のシャクナゲ』 二月八日(土)
- 朗読 塩尻曜子氏(井上靖ナカマドの会会員)  
講師 当館職員 ①く③平野武弘 ④上田郁子

### 赤い実の洋燈茶会

表千家旭川地区青年部の協力による茶会を開催しました。

とき 六月十六日(日)  
共催 表千家旭川地区青年部  
井上靖ナカマドの会



赤い実の洋燈茶会

### 文学散歩

井上靖記念館から井上靖通りを巡り、近文・春光台と、地域に建立された身近な文学碑を散策を兼ねゆつくりと鑑賞しました。

とき 六月二十九日(土)  
講師 平野武弘(当館職員)

### 夏休みおはなし会

井上靖作のことも向けの詩や、楽しい絵本の読み聞かせなど一回目は十作品、二回目には五作品の語りと手遊び・わらべうた等を行い、子ども達は楽しい時間を過ごしました。

- 第一回 七月三十日(火)  
講師 旭川おはなしの会の皆さん
  - 第二回 八月六日(火)  
講師 福田洋子氏(こども富貴堂店長)
- こども富貴堂の皆さん

### 文学講座

井上靖文学の理解を深めるため講師をお招きし、井上作品について多方面からの考察や解説を行っていただきました。

- 第一回 「井上靖『孔子』と『論語』—孔子と弟子たちとのつながり—」  
とき 九月二十一日(土)  
講師 石本裕之氏(旭川工業高等学校教授)
- 第二回 「井上靖の小説を読む—初期作品の魅力について—」  
とき 一月二十五日(土)  
講師 片山晴夫氏(北海道教育大学特任教授)

### 読み語り 耳と心に響くお話

井上靖の短編『先生の結婚』や新美南吉の童話作品など、多彩な読み語りを行いました。メンバーの心のこもった語りに、参加者はじつくりと物語の世界に聴き入りしました。

とき 十月二十六日(土)  
講師 読み語りの会「空とぶペンギンく声の贈りもの」の皆さん



読み語りの会

### 大人のためのおはなし会

『こんぎつね』や『かさ地蔵』など日本の昔話や、外国のお話を含む五つの作品を語っていただきました。参加者は、身振り手振りで語られる豊かなお話の世界を堪能しました。

とき 二月二十七日(木)  
講師 旭川おはなしの会の皆さん

### 開館二十周年記念事業

共催/井上靖ナカマドの会

### 生誕日記念無料開館 ミニコンサート

五月六日に井上靖が旭川で生まれたことを記念し当日を無料開館し、ミニコンサートを挙げて井上靖の生誕を祝いました。

とき 五月六日(月・祝)  
講師 佐々木芳子(二胡)  
ジョージ渋谷(ギター)  
共催 井上靖ナカマドの会

## 文学講演会 (二日連続開催)

井上靖研究の第一人者である藤沢全氏をお招きし、講演を行いました。



文学講演会

とき 七月二十日(土)二十一日(日)  
講師 藤沢 全氏(日本大学講師)  
内容 ①「旭川と井上靖」文豪の安らぐ新天地」  
②「洪作という他者」井上靖の自伝的領域」

## ロビーコンサート

世界的なハープ奏者・池田千鶴子氏によるトークとハープの演奏を楽しみました。

とき 八月三十一日(土)  
講師 池田千鶴子(ハープ奏者)



ロビーコンサート

## 映像の世界

井上靖原作の映画「わが母の記」のビデオ上映会を開催しました。上映終了後、参加者は映画撮影のロケセットとなった当館の書齋・応接間を熱心に見学していました。

## 共催事業

### 赤い実の洋燈読書会

共催/赤い実のランプふぁんクラブ

とき 毎週土曜日  
開催回数 三十六回  
テキスト  
①『夜の声』  
②『樺の木』  
③『夏草冬濤』

## 井上靖記念館 青少年

### エッセーコンクール

本コンクールは、東京世田谷にあった井上靖の書齋・応接間が、生まれ故郷である北海道旭川に移転再現されたことを記念し、青少年の文学への関心を高めるとともに、詩人であり小説家、また優れたエッセイストでもあった井上靖の作品を後世に読み継ぐことを目的として、北海道新聞社と共催し、平成二十四年度から開催しています。

応募総数一八六編の中から厳正なる審査の結果、優秀作品十一編を選考し、表彰しました。

表彰式後、審査員長の吉増剛造氏による記念講演会を行いました。

優秀作品は表彰式から一か月間、当館にて展示しました。

テーマ 「ともだち」

募集対象 全国の中学生・高校生とこれに準じる年齢の青少年

募集開始 六月十七日

募集締切 九月十四日

一次審査 中学生の部十一編、高校生の部十一編を選考。

最終審査 十一月一日

表彰式及び記念講演会 十二月十五日

審査員長 吉増剛造氏(詩人)

審査員 平原一良氏(北海道立文学館理事)

竹田 智氏(北海道新聞社文化部長)



エッセーコンクール受賞者の皆さん



受賞作品展示の様子

高校生の部					中学生の部					受賞者	タイトル
堀越 佳作	伊東 秀登	足田 小梅	優秀賞 佐々木 宏斗	最優秀賞 福田 茉央	金谷 太誠	井上靖チカマドの会賞 高澤 英子	佳作 小松 愛香	優秀賞 中原 友季	優秀賞 戸田 真由香		
はるな	登	梅	宏斗	茉央	太誠	英子	愛香	友季	真由香	美穂	ともだち
真逆な親友	言葉の力	佐伯君	たくさんいなくても…	まみちゃんのお顔	心の支え	言えるようになった	友達以上の友達	ともだちという存在	ともだち	思いを伝える	ともだち

## 平成 25 年度のあゆみ

- 4月27日 企画展「井上靖と旭川」展（～7月28日）
- 5月6日 開館20周年記念 ミニコンサート
- 5月18日 井上靖講座①「井上靖と旭川」
- 6月1日 無休開館（～8月31日）
- 6月8日 井上靖 短編小説を読む①『桃李記』
- 6月15日 文学講演会
- 6月16日 赤い実の洋燈茶会
- 6月29日 文学散歩
- 7月9日 相談役会議（東京開催）
- 7月20日 開館20周年記念文学講演会  
（～21日・2日間連続開催）
- 7月30日 第1回夏休みおはなし会
- 8月3日 企画展「井上靖 人と文学Ⅳ」展（～11月17日）
- 8月6日 第2回夏休みおはなし会
- 8月24日 井上靖講座②「井上靖 人と文学Ⅳ」
- 8月31日 開館20周年記念 ロビーコンサート
- 9月7日 井上靖 短編小説を読む②『狼災記』

- 9月21日 第1回文学講座
- 10月11日 開館20周年記念上映会 映像の世界
- 10月17日 第1回旭川市井上靖記念館運営協議会
- 11月1日 第2回青少年エッセーコンクール審査会
- 11月3日 文化の日無料開放・クイズラリー
- 11月9日 井上靖 短編小説を読む③『天目山の雲』
- 11月23日 企画展「井上靖 現代文明批判」展  
（～2月16日）
- 12月7日 井上靖講座③「井上靖 現代文明批判」
- 12月15日 第2回青少年エッセーコンクール表彰式
- 1月25日 第2回文学講座
- 2月8日 井上靖 短編小説を読む④『比良のシャクナゲ』
- 2月22日 企画展「井上靖と天災地変」展（～4月20日）
- 2月27日 大人のためのおはなし会
- 3月8日 井上靖講座④「井上靖と天災地変」
- 3月15日 第2回旭川市井上靖記念館運営協議会

## 平成二十六年年度の案内

### 企画展

「井上靖 人と文学Ⅴ 『鬮牛』『獵銃』の世界」展

四月二十六日（土）～七月二十七日（日）

「映像化された井上作品Ⅰ」展

八月二日（土）～十一月十六日（日）

「井上靖 初出掲載誌」展

十一月二十二日（土）～二月十五日（日）

「井上靖と西域紀行」展

二月二十一日（土）～四月十九日（日）

### 講座・講演会

井上靖講座

①五月十七日②八月二十三日③十二月六日④三月七日

文学講演会（二回）

①六月二十八日②七月十九日

九月・一月

### 青少年エッセーコンクール

募集開始 六月中旬 入賞作発表 十一月

### 普及事業

文学散歩

七月五日 九月二十六日

映像の世界

七月三十日・八月五日

夏休みおはなし会

八月三十日 十月二十五日

ロビーコンサート

十月二十五日 二月二十六日

読み語り 耳と心に響くお話

大人のためのおはなし会

読書会

井上靖 短編小説を読む

①六月七日『断雲』 ②十月四日『高天神城』

③十一月八日『洪水』 ④二月七日『風』

赤い実の洋燈読書会（毎週土曜日）

「赤い実のランプふあんクラブ」との共催読書会

企画展の会期及び自主事業等の開催日は変更となる場合がありますので、ご了承ください。

詳細については、当館までお問い合わせください。

なお、当館ホームページでもご案内しています。

<http://inoue.abs-tomonokai.jp>

### ◇年度別観覧者数◇

年度	人数	年度	人数
平成5年	12,703	平成16年	10,077
平成6年	20,385	平成17年	7,772
平成7年	16,599	平成18年	6,331
平成8年	14,893	平成19年	7,267
平成9年	14,639	平成20年	6,740
平成10年	16,832	平成21年	6,003
平成11年	15,848	平成22年	6,085
平成12年	13,486	平成23年	5,830
平成13年	11,450	平成24年	8,450
平成14年	12,475	平成25年	5,088
平成15年	13,496	総入館者	232,449

### ●編集後記●

昨年は、開館二十周年を迎え、ボランティア組織ナナカマドの会の協賛でミニコンサート・文学講演会・映像の世界等多くの方々に楽しんでいただけたる事業を催しました。

当館は、平成二十六年四月一日より特定非営利活動法人旭川文学資料友の会が指定管理者となり、新たな一歩を踏み出しました。

井上先生の書齋・応接間が移転再現されてから二年が経ちましたが、生前の井上先生と親交をお持ちだった方や、井上作品の熱心な読者など、この間多くの方々が旭川を訪れ、この井上靖記念館に足を運んでいただきました。

井上先生の残された膨大な書籍類や貴重な美術品の数々を来館者にPRしながら、旭川の財産としてこれからも末永く維持管理に努めていきたいと考えています。